

修士論文要旨

題目 現代農山村における「環境文化運動」の民族誌学的研究

—地域環境教育活動を担う住民の複層性に着目して—

東北大学大学院教育学研究科人間形成論研究コース A2PM1001 出川真也

要旨

当研究は、農山村地域において近年行われている一連の「環境文化運動」（＝環境教育活動）を、地域住民内部の声からその複層性を浮き彫りにすることを經由して、新たな連帯と発信のあり方を模索する住民の最新の動きまでを点描し、これらの取り組みが持つメッセージを考察したものである。

現代日本の農山村社会は高度経済成長期以降の産業化の中で社会経済的に周辺化され、過疎化・少子化・高齢化が国内でもっとも激しく進んでいる。そのような中で近年、農山村地域独自の自然と文化に基盤をおいた環境教育活動が行われている。この環境教育活動は子供達に農山村独自の自然や生活文化を伝える取り組みを通して、農山村の文化的アイデンティティを再発見・再評価しようとする、現地住民からの「環境文化運動」と言える。また、農山村の濃厚な人的つながりを駆使して行われるコミュニティの再形成の活動であるとも言えるだろう。

これらの一連の運動・活動は地域住民によって担われている。しかしながら、従来の環境教育学は、環境教育の取り組みそのものを考察することはあっても、その活動を担う（地域集落の）住民に焦点を当てることは少なかった。当研究では、農山村地域の環境教育活動と並行してこの活動を担う地域住民の日常生活や取り組みに対する意識を、現地における詳細な参与観察とインタビュー調査をもとにして、民族誌的記述によって描こうと試みた。その結果、これらの一連の環境教育活動が、活動を担う地域住民の内部（及び外部）の多様な背景や思惑を持つ人々の極めて複雑で錯綜した状況のもとで展開されていることが浮き彫りになった。それは、世代・ジェンダー間の相違、外部参加者との意識の違い、個々人のアイデンティティに起因する相違であり、そこから生じる住民の、地域の将来像や子供達に対するまなざしや展望についての、時に相互に対立するような地域及び家庭内部の複数の声を伴うものであった。

しかし、当研究調査が進むにつれ、地域住民は、地域環境教育活動の展開の中で見えてきたこれら複数の軸で分断された住民の新たな連帯のあり方を模索しはじめた。それは現代社会の生活スタイルを見据えつつ、それに対して、農山村のローカルだと思われていた価値観を、多様な人々が参画できるより高次のグローバルな価値付けによって発信することを自覚したものである。